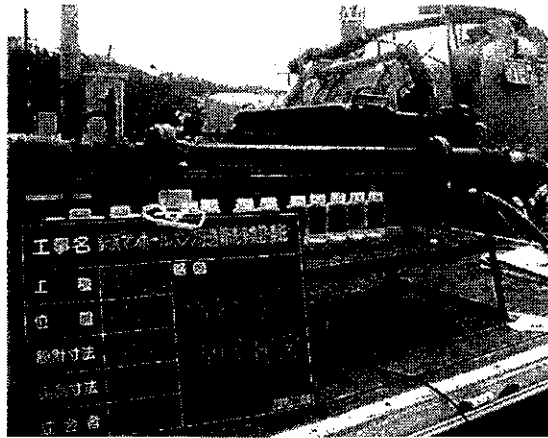


2017年(平成29年)8月30日



アイスピグ工法

# 女川町で圧送管洗浄

## 流量改善 ポンプ稼働時間半減

到達口に設置したアクリル管に黒色のアイスピグが流れ込む

アイスピグ研究会は、このほど、宮城県女川町でアイスピグ管内洗浄工法を活用した下水圧送管洗浄業務が行われたことを明らかにした。同研究会会員の志賀建設工業(本社：石巻市、宮田雄一社長)が受注したもの。洗浄後には、大幅な流量改善が見られ、上流部のマンホールポンプの稼働時間も洗浄前比で半減するなど、効果が認められた。県内での採用は、

登米市、大和町、大衡村、富谷市に続き5例目。

アイスピグ管内洗浄工法は、固液双方の特性を兼ねそろえた特殊アイスシャーベットにより、管内洗浄を行う画期的工法。▽ピグ詰まりリスクの解消▽高い剪断能力を持つ▽伏越し管への適用が可能▽が特徴の、下水圧送管対応の唯一の洗浄工法。

洗浄対象は、同町が管理する針浜マンホールポンプに接続するφ75×470の下水圧送管(ポリエチレン管)。下流の吐出し口付近は高低差10以上の急勾配となっており、汚泥等の付着

物の堆積が懸念されていた。同ポンプでは近頃、管内での汚泥堆積に伴う管内有効面積の縮小による流量不足が原因と見られる水位異常警報が多发しており、早期の洗浄が求められていた。

リーユニットで運搬した特殊アイスシャーベット(アイスピグ)2・2トンを、下流側の吐出し口から注入した。注入開始から30分後には、汚泥等を包み込んだ黒色のアイスピグが到達口に流入した。

洗浄結果としては、洗浄前ではマンホールポンプの稼働時間が192時間/週であったものが、洗浄後には99時間/週と大幅に短縮され、溢水リスクおよび運転管理コストの低減につながったという。